

経済・金融 フラッシュ

ブラジル GDP(2021年4-6月期) —投資鈍化と消費低迷で前期比マイナス成長に

経済研究部 准主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

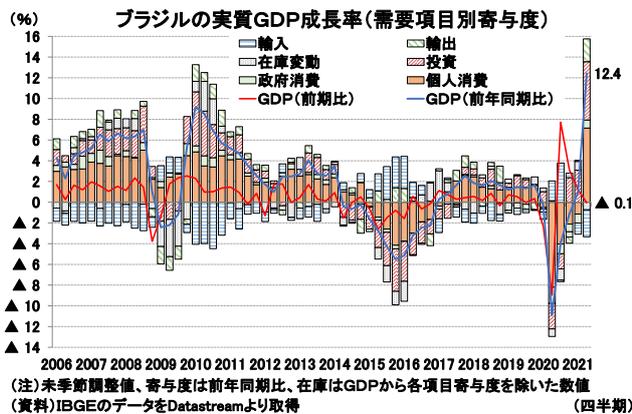
1. 結果の概要:再びマイナス成長に転じる

6月1日、ブラジル地理統計院（IBGE）は国内総生産（GDP）を公表し、結果は以下の通りとなった。

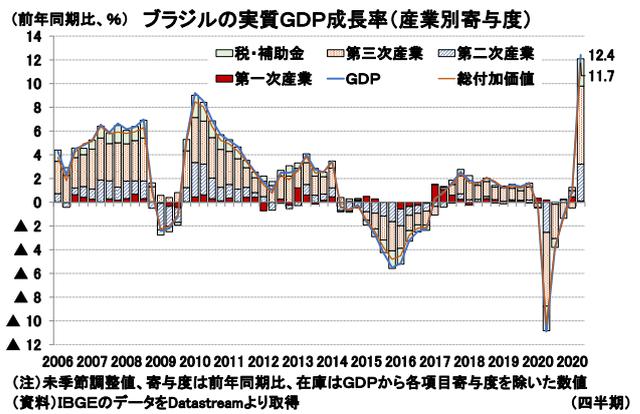
【実質GDP成長率（2021年4-6月期）】

- ・前年同期比伸び率（未季節調整値）は12.4%、市場予想¹（同12.7%）を下回ったが、前期（+0.1%）から改善した（図表1・2）
- ・前期比伸び率（季節調整値）は▲0.1%、予想（同+0.2%）を下回り、前期（同+1.2%）からマイナス成長に転じた。

（図表1）



（図表2）



2. 結果の詳細:4-6月期は投資が鈍化、消費も低迷が続く

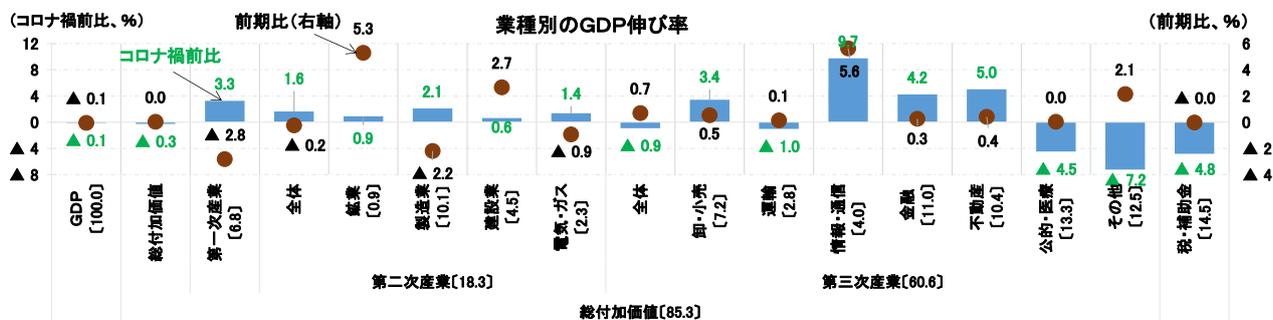
4-6月期の実質GDP伸び率は前期比▲0.1%（季節調整値、年率換算▲0.2%）となり、昨年4-6月期以来のマイナス成長となった。コロナ禍前（19年10-12月期）との対比では、21年1-3月期にはほぼコロナ禍前の水準まで回復、4-6月期はほぼ横ばいで推移したことになる（図表4・5）。

成長率（前期比）を需要項目別に見ると、個人消費が0.0%（前期：0.1%）、政府消費が0.7%（前期：▲0.8%）、投資▲3.6%（前期：4.8%）、輸出が9.4%（前期：4.9%）、輸入が▲0.6%（前期：10.0%）となった。コロナ禍前との対比では、GDPが▲0.1%、個人消費が▲3.0%、政府消費が▲4.3%、投資が14.9%、輸出が10.2%、輸入が6.0%という状況にある。

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

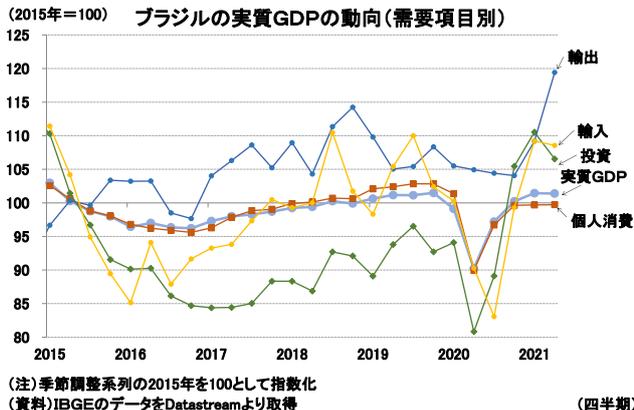
4-6月期のGDP低迷は1-3月期に成長のけん引役となった投資が4-6月期にマイナスに転じたことが要因として大きい。コロナ禍後からの回復が滞っている要因としては消費の低迷も挙げられる(図表4)。ブラジルでは、昨年末から新型コロナの感染者数は高めの水準で推移しているが、急増は避けられており、経済への影響としてはインフレ率の急上昇と実質購買力の低下といった要因も大きいと見られる。他方、輸出は好調で、主に中国向けの大豆輸出などが成長を支えている。

(図表3)



(注)カッコ内は2019年のGDPに占める各産業の割合、グラフに記載している数値(データラベル)は黒が前期比、緑がコロナ禍前比の数値

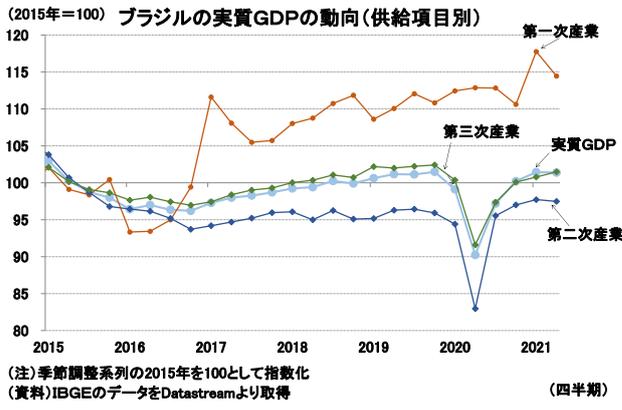
(図表4)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(四半期)

(図表5)



(注)季節調整系列の2015年を100として指数化
(資料)IBGEのデータをDatastreamより取得

(四半期)

次に産業分類別に実質GDPの伸び率を見ると(図表3)、前期比は大分類では「第一次産業」が▲2.8%、「第二次産業」が▲0.2%、「第三次産業」が0.7%となり、第一次産業の落ち込みと第二次産業の低迷が全体のGDPを押し下げている。第一次産業では、コーヒーの不作²などの影響、第二次産業では自動車産業を中心とした部品の供給制約の影響が顕在化した形となった。一方、コロナ禍前と比較すると水準が低いのは「第三次産業」であり、特にコロナ禍の影響を受けやすい「その他(専門サービス、生活関連サービス、娯楽等)」(コロナ禍前比▲7.2%)は回復が進んでいるものの、コロナ禍前と比べると7%以上低い水準にある。

ブラジルでは足もとの新型コロナの感染者数が減少傾向にあり、感染症の懸念は後退しているものの、一方でインフレ率は7月に前年比8.99%まで上昇、中央銀行の目標(3.75±1.5%)を大きく超えている。中央銀行は金融引き締めを強化し、政策金利はコロナ禍後のボトムの2%から8月には5.25%まで引き上げられ、2019年9月(5.5%)以来の水準になっている。そのため高インフレによる消費低迷や金利上昇による投資鈍化が今後の経済への重しとなる可能性があるだろう。

² ブラジルのコーヒー収穫は生産量が多い年と少ない年を交互に繰り返す特徴がある。今年は収穫が少ない年となっている上天候不順に見舞われている。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。